

実践のまとめ（第4学年 国語科）

柏崎市立比角小学校 教諭 佐藤 悠理

1 研究テーマ

**「学びに向かう力」を自ら高める児童の育成
～「問い」をつくり、「問い」で読み合う授業づくりを通して～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では「言葉による見方・考え方」を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目標としている。これまでの授業は、教師主導で学習課題を提示し、児童に気付かせようという意図から発問や板書を考えることが多かった。また、対話後に個人で考えを再構築したり、学びを振り返ったりする際の手立てが不十分であった。

そこで、児童が「何を、どう学ぶか」を自己決定し、対話を通して考えを深める姿、自らの学びを振り返り、新たな気付きを得て学びを前進させていく姿を目指す。そのために、物語教材において児童自ら「問い」を立て、「問い」で読み合う授業づくりを行い、学びに向かう力を自ら高める児童を育てたいと思い、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 「問いづくり→グループでの交流→問いの評価・振り返り」のサイクルによる単元構成

本単元では、授業者からの発問ではなく「問いづくり→グループでの交流→問いの評価・振り返り」という児童主体のサイクルで単元を構成する。

問いづくりでは、(i) 本文からはずれない (ii) 「～は～か」という問いかけの文にするという二つの条件を示し、それぞれが考えた問いをグループや学級全体で分類・整理・検討し、みんなで考える問いを決定する。授業者は、発言を取り上げたり、他の児童へ発言を促したりと、問いを学級全体で共有し、交流を促すことに努める。

読み合いでは、「問いの確認→グループでの読み合い→全体で共有→問いに対する考えのまとめ」という1時間の組み立てで授業を展開する。全体で読みを共有する場面では、児童の思考に応じて、気付いていない点に目を向けたり、よりコミュニケーションや思考を活性化したりできるように、児童をゆさぶるような問い返しをする。

第2次でこのサイクルを繰り返すことにより、児童は何を学びたいのか、どのように学びたいのかに目を向けつつ物語を読み深めていくことができると考える。

② 自らの学びを分析する振り返りの工夫

問いについて読み合った後は「問い日記」として、問いを評価し自己の学びを振り返る。

以下の観点で振り返り、まとめていくことで学びの自覚化へとつながる。

(i) 問いの評価（問いはよかったか、その理由）

(ii) 読み方の価値づけ（読み合いを通して新しく分かったことや発見したこと）

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① グループでの交流の際、主体的に参加し問題解決しようとした児童が90%以上になる。
(アンケート)
- ② 振り返り（問い日記）に、自己の学びを振り返り新たな気づきを記述する児童が増える。
(ノート)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう（教材文「ごんぎつね」国語四下 光村図書）

(2) 単元（題材）の目標

- ・ 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
【知識及び技能（1）オ】
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
【思考・判断・表現等C（1）オ】
- ・ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
【思考・判断・表現等C（1）エ】
- ・ 自ら問いを立て、進んで登場人物の気持ちの変化を想像し、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。【（1）ア】	・ 「読むこと」において登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。【C（1）エ】 ・ 「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。【C（1）オ】	・ 自ら問いを立て、進んで登場人物の気持ちの変化を想像し、思いや考えを伝え合おうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全13時間、本時10／13時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (4)	・ 設定・構造・内容の把握 ・ 問いづくり	◎教材文を読み、初発の感想を交流する。 ◎物語の設定と構造を確認する。 ◎問いをつくり、問いの選択・検討・精選をする。	態度 自分の感想を進んで友達に伝えようとしている。【観察・発言】
2 (7)	・ 問いの解決 交流→問いの評価	◎問いをもとに、教材文を再読し、問いに対する考えを話し合う。	知識・技能 行動や様子、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊

		◎問いを評価し、問い日記にまとめる。	かにしている。【ノート・発言】 思考・判断・表現 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもっている。 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。【ノート・発言】 態度 考えたことを進んで書いたり、伝えたりしようとしている。 【観察・発言】
3 (2)	・学習成果のまとめ	◎読み取ったことをもとに続きの物語を書き、交流する。	思考・判断・表現 文章を読んで理解したことに基づいて、続きの物語を記述している。【ノート】

4 単元（題材）と児童（生徒）

(1) 単元について

行動、情景など複数の叙述を結び付け、自分の生活経験やこれまで学んできたものと相互に関連付けて、自分の考えを構築する姿が本単元における「深い学び」である。その姿を実現するために、児童が主体的に読み進めたいと思えるような単元構成が必要である。まず初発の感想から個人で問いを立ち上げる。それを比較・検討し、みんなで解決したい問いを練り上げる。そして、グループでの交流を通してそれぞれの読みを共有し、より妥当な読みを協働的に作り上げる過程により、個の考えを深めていく。振り返りでは、自己の学びと新たな気づきを言語化して次の時間へとつなげ「問いづくり→グループで交流→問いの評価・振り返り」のサイクルを経験し、児童が自ら学びを意味付け、進展させることに重きを置く。

(2) 児童（生徒）の実態

児童はこれまで二つの物語教材を使って学習を積み重ねた。「白いぼうし」では会話文や色、においなどを表す言葉などに着目して、出来事と人物の気持ちを捉えた。また、「一つの花」では、登場人物の行動や会話、情景描写から戦争中と戦後の様子や心情の変容について考え、感想を書く活動を行った。本学級の児童は、心情を表す叙述には気付くものの語彙の少なさや表現の仕方が分からないために、心情をつかめないことがある。対話的活動を楽しむ児童が多いので、教師主導で表現の仕方を教えるのではなく、交流の場面で友達の表現や読み方を知ること、児童自身が読みの手立てや語彙を習得できるようにしたい。

5 本時の展開 (令和7年9月25日実施)

(1) ねらい

叙述をもとにそれぞれの読みを交流する活動を通して、登場人物の気持ちを捉えることができる。

(2) 展開の構想

① 児童の思考を活性化する問い返し

交流の場面で、児童同士のコミュニケーションや思考をより活性化したりできるように、児童をゆさぶるような問い返しをする。また、児童に委ねつつも気付いていない点に目を向けるような問いかけや、状況や文脈によっては視点を示すなどし、授業者がファシリテーター役を担う。

② 話し合いの過程を「見える化」する板書づくり

全体で共有する場面では、児童の考えを電子黒板に提示したり、発言のつながりを矢印や記号等を使って関連付けながら板書したりして、話し合いの過程を整理する。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5	○課題をつかむ	◎前時の板書を示しながら、「問いづくり」の話し合いを想起させ課題を確認する。	◇前時の板書を電子黒板で提示する。
ぐったりとしてうなずいたとき、ごんはどんな気持ちだったのだろう。			
展開 5 10 15	○個人思考 ○意見交流 ○全体での読み合い共有	◎個人思考を促す。 ・悲しいけど、少し嬉しい気持ちもあったかもしれない。 ◎自分が意見を聞いてみたい人とペアやグループになり意見を交流する。 ◎全体の読み合いを共有し、交流や発言を促す。	○話し合いの流れをつかむことができるように、板書に整理する。 ○思考の深まりや新たな気付きにつながるように、児童の考えをゆさぶるような問い返しをする。 □考えたことを進んで書いたり、伝えたりしようとしている。 【態度 観察・発言】
まとめ 10	○問いに対する考えのまとめ	・最初は悲しい気持ちだけだと思っていたけど、みんなの意見を聞いて少し変わった。ごんは自分が栗を届けていると兵十に気付いて欲しかったと思うから、少し嬉しい気持ちにもなったかもしれないと思った。	○他の児童が着目した言葉や板書を参考にするよう伝える。 □叙述を基に、登場人物の気持ちを捉えることができる。 【思判表 ノート・発言】

(4) 評価

- ・ 叙述を基に、登場人物の気持ちを捉えることができる。 【思判表 ノート・発言】
- ・ 考えたことを進んで書いたり、伝えたりしようとしている。 【態度 観察・発言】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① 第1次 問いづくり（解決したい問いの検討・精選）

第1次では、個人で解決したい問いを考えた後、三人グループで問いの検討・精選を行った。ピラミッドチャートを用いて、それぞれが考えた問いを比較、検討しながら「みんなで考えたい」「読みが深まる」という二つの条件に当てはまるように問いを精選した。教師が指示を出さずとも何度も本文を読み返し「その答えはここに書いてあるよ。」とグループ内で叙述を基に問いを解決する姿が多く見られた。その後、各グループで出された問いを学級全体で分類し、解決する順を話し合い「問いの地図」を作成した。「考えに変化があるかもしれない」という意見から、作者の意図に関する問いは最初と最後の二回考えることにした。また「もし兵十がごんを撃っていなかったら、どんな物語になったのだろう。」というある児童の問いから、多くの児童が自分なりに物語を考え始めたため、児童と話し合い、単元の終末に「続きの物語を書く」という活動をするようにした。

【問いの地図】

- | |
|--|
| ① 作者が「ごんぎつね」を通して伝えたかったことは何だろう。 |
| ② ごんは最初兵十にいたずらをしていたのに、なぜやさしい心になったのだろう。 |
| ③ ごんをうってしまった兵十は、どんな気持ちだったのだろう。 |
| ④ ぐったりとしてうなずいたとき、ごんはどんな気持ちだったのだろう。 |
| ⑤ ごんがうたれた後に続きがあったとしたら、どんな物語になっていたのだろう。 |
| ⑥ 作者が「ごんぎつね」を通して伝えたかったことは何だろう。 |

② 第2次 問いの解決（個人思考⇒交流⇒問い日記による振り返り）

第2次では①個人思考②ペア・グループ交流③全体で共有④問い日記による振り返りというサイクルで問いを解決していった。児童が納得感をもって問いを決めたこともあり、どの問いに対しても意欲的に解決しようとする姿が多く見られた。個人思考の場面では、回数を重ねるごとに言葉や情景にこだわり、説得力のある考えを出そうとする姿が増えてきた。ペア・グループ交流は、教師側が促すのではなく「友達と話したい」という声が上がった際に行い、意見を聞きたい人に聞くこととした。その際に児童は、全文シートを片手に根拠を示しながら問いの答えについて話し合っていた。また、友達の意見を参考に自分の考えを練り直したり、友達と議論することを楽しんだりしていたことが、問い日記による振り返りから伺えた。一方で、普段よく関わる児童同士の交流のみで終わってしまうことが多く、全体で共有する場面でも意見の分類や比較のみで問いは解決したものの、新たな視点で考えを練り直したり、議論したりする場面はほとんどなかった。

【問い日記 児童の記述の詳細】

最後の場面のごんの気持ちをみんなで考えられてよかった。「分かってくれて嬉しい」という〇〇さんの意見を聞いて、すごくなるほどと思った。後悔や悔しい気持ちだけじゃなくて、ごんには嬉しい気持ちもあったことが分かった。また違う問いでもみんなで考えて読みを深めていきたい。

話し合いでは、みんなそれぞれ違う考えで、他の人の意見を聞くといろいろな発見ができた。自分では思いつかなかった意見もあったからみんなすごいと思ったし、私の発表にみんなが拍手をしてくれて嬉しかった。

③ 第3次 学習成果のまとめ（続きの物語作り）

第3次では、これまで読み取ったことを基に続きの物語作りを行った。児童の多くが第2次で考えた兵十やごんの気持ちを生かしながら物語を書き進めていた。この活動も教師主導ではなく児童が決めた活動だったこともあり、普段書く活動を苦手とする児童もいきいきと取り組んでいた。また、物語を書き終えた後に「みんなの物語を読んで、感想をメッセージで送りたい」という児童の声からそれぞれの物語を読み合いタブレットを活用して感想を交流した。

（2）研究テーマに関わる評価

① 授業アンケート（単元の学習後に実施。n=25。）から

アンケート項目	肯定的評価	否定的評価
自分から進んで友達と話し合い、問いを解決しようとした	24(96%)	1(4%)
最初に読んだときよりも「読みが深まった」と思う	24(96%)	1(4%)
問いづくりをして解決していく授業は楽しかったか	24(96%)	1(4%)

多くの児童が友達と交流しながら、主体的に問いの解決を解決しようとし「読みが深まった」と実感することができたと考えられる。また、そういった授業を児童が「楽しい」と感じるようになった。否定的評価はどれも異なる児童であり、全項目に対して否定的評価の児童はいなかった。

② 児童の振り返り（問い日記）（第2次1時間目と7時間目の記述。n=25。）から

アンケート項目	1時間目	7時間目
交流・全体共有を受けて新たな気づきを記述している児童	19(76%)	25(100%)

個人思考場面での記述と終末の振り返り（問い日記）を比較した際、交流後に新たな気づきや根拠を加えた児童が増加した。全児童の問い日記の文量が【第2次 問いの解決】1時間目より増えており、記述内容から交流や全体共有を通して自分の考えが強化されたり、友達の意見に納得し考えが変容したり、付け足されたりしていることが分かった。

（3）今後の課題

① 問いの解決場面における交流のやり方の工夫

ペア・グループ交流のやり方を児童に委ねたが、手立てが不十分であったため交流する相手が限られてしまった。ネームプレートを活用して考えを板書に示す⇒異なる考えの友達と交流する、根拠や理由を問うよう促すなど、より多くの友達と交流できるように手立てを工夫していきたい。それが、読みの深まりや広がりにつながると考える。多様な読みを知る楽しさやみんなで議論しながら主人公の気持ちを読み解いていく面白さを児童が味わえるような授業づくりをしていきたい。

② 読みを深めるための教師による問い返し

本実践では児童同士の意見をつなぐという意識で問い返しを行ったが、読みを深めるという点において効果的な問い返しが足りなかった。児童の議論には出てこなかった新たな視点を示したり、理解が浅い箇所について問い返すことで児童が再考し、考えを吟味したりするような問い返しを磨いていきたい。そのために、まずは自分が表現や一つ一つの叙述にこだわって教材研究をし、児童の読みを踏まえてどのような問い返しをするか構想し実践していきたい。

<引用・参考文献>

文部科学省, 小学校学習指導要領解説 国語編, 東京書籍株式会社, 2017.

白坂洋一・香月正登, リフレクション型国語授業, 東洋館出版社, 2024.

白坂洋一, 子どもの思考が動き出す国語授業 4つの発問, 2021.